



富山市立奥田北小学校

ひ ま わ り 向 日 葵

令和8年度
学校だより

5月号



学校 HP
QR コード

「褒める」ときは？

校長 高地 修

保護者の皆様、先日の学習参観、学級懇談会にご来校いただきありがとうございます。私は、学級懇談会でのビデオメッセージにおいて、今年度は特に「よさを褒め合い、自分と仲間を大切に作る子供」に力を入れ、キーワードは「褒める」であるとお話ししました。そこで、今号では、私の「褒める」の考えをお伝えします。

私が小学生の頃、先生も親も、「一日一善（1日に一つだけでも何か善い行いをするこ）」と言っていた記憶があります。お年寄りが重い荷物を辛そうに運んでいたら助ける、道端にごみを見付けたら拾うなどの行為が例えられました。私は褒められたいので、善い行いをしようと気を付けていました。しかし、そのような都合のよい場面はありません。現在、善い行いは、さりげなくできるようにならないといけないと思っています。

さて、教職員の立場から、私なりにどんなときに「褒める」のかを考えてみました。

- ① 自主的に親切な行いをしたとき
困っている人を助けた。みんなで使うところが汚れていたから掃除した。など
- ② よい成績を収めたとき
図画展で受賞した。競技大会で1位になった。テストで満点をとった。など

①②は、行動や結果として表れるので分かりやすく、褒めやすいです。

- ③ 自分で決めたことをやり続けている、努力しているとき
毎日、読書している、漢字練習している。運動技能の向上を目指して練習している。など
- ④ 以前の自分よりよくなった、成長したとき（他人と比べない）
100ます計算、短距離走のタイムが縮んだ。初めて逆上がりができた。など

③④は、個々の子供の実態を知っていなければ褒められません。例えば、今まで発表したことのない子供が、勇気を出して挙手して発表できたとしたら、褒めたいです。教職員は、一人一人の子供の成長を捉え、褒められるように努めます。

- ⑤ 当たり前のことのできているとき
よい姿勢で学習する。丁寧な字を書く。すぐに整列できる。場に応じて静かに過ごす。など

⑤の行動は、当たり前と捉えられるので、意外に見過ぎされがちです。でも、当たり前のことのできるのには素晴らしいことです。私は、今年度、当たり前のできていることも褒めてほしいと教職員に伝えています。常に頑張っている子供を認めて、褒めていきたいです。

また、褒める際には、「すごい」「すばらしい」だけでなく、具体的に何がよかったのかを褒めることが大切です。さらに、「先生、嬉しいな」「ありがとう」など、喜びや感謝の気持ちを伝える誉め言葉もあると思います。自己有用感を高めることができます。

このような視点を持ち、教職員が子供たちを認めて褒め、子供同士も認め合って褒め合いながら、学校教育目標「自分のよさを伸ばし、主体的に活動する子供の育成」を実現したいと思います。保護者、地域の皆様方のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



【100ます計算に取り組む2年生】